



指導計画作成上の留意点及び配慮事項はどうなっているのか。  
(配慮事項の詳細)

配慮事項の詳細は以下のとおりである。

- (1) 第2の各学年の内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導については相互の関連を図るようすること。

● 表現と鑑賞の指導の関連を図る

指導計画作成に当たっては、表現及び鑑賞のそれぞれの目標と内容を明確に把握し、相互の関連を十分に図った学習が展開されるよう配慮しなければならない。

そのためには、各内容における指導のねらいを十分に検討し、それを実現することのできる適切な題材を設定し、系統的に指導計画に位置付ける必要がある。

その際、表現と鑑賞の相互の関連も図り鑑賞することで表現の能力がより高められるようにするとともに、表現することで鑑賞の能力もより高められるよう十分配慮する必要がある。



例えば、「A表現」(1)アの主題を生み出すことと、「B鑑賞」(1)アの作者の心情や意図などを感じ取ることは相互に関連しており、作品を鑑賞し作者の心情や意図について考えることが、表現する際に主題を生み出す力を高めることになる。また、表現で主題を生み出した学習経験が、鑑賞で作者の心情や意図を感じ取る力を高めることにつながるようになる。

- (2) 第2の各学年の内容の〔共通事項〕は表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要となるものであり、表現及び鑑賞の各活動において十分な指導が行われるよう工夫すること。

● 〔共通事項〕の取扱い

〔共通事項〕は表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質や能力を示したものであり、表現及び鑑賞の各活動に適切に位置付け、指導計画を作成する必要がある。

〔共通事項〕を「A表現」及び「B鑑賞」の学習の中で十分に指導をするためには、具体的な学習活動を想定し、〔共通事項〕に示されている「形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること」や、「形や色彩の特徴を基に、対象のイメージをとらえること」をどの場面で指導するのか明確にし、指導計画の中に位置付ける必要がある。

その際、〔共通事項〕の視点で指導を見直し学習過程を工夫することや、生徒自らが必要性を感じて〔共通事項〕の視点を意識できるような題材を工夫するなどして、形や色彩などに対する豊かな感覚を働かせて表現及び鑑賞の学習に取り組むことができるようにすることが大切である。

- (3) 第2の各学年の内容の「A表現」については、(1)及び(2)と、(3)は原則として関連付けて行い、(1)及び(2)それぞれにおいて描く活動とつくる活動のいずれも経験させるようにすること。その際、第2学年及び第3学年の各学年においては、(1)及び(2)それぞれにおいて、描く活動とつくる活動のいずれかを選択して扱うことができることとし、2学年間を通して描く活動とつくる活動が調和的に行えるようにすること。

● 「A表現」の(1)及び(2)と、(3)は原則として関連付ける

表現題材を設定する場合は、「A表現」(1)及び(2)の発想や構想に関する項目と、(3)の創造的な技能に関する項目はそれぞれ単独で指導するものではなく、(1)又は(2)の一方と、(3)は原則として関連付けて行うこととしている。これは、表現活動においては、発想や構想の能力と、創造的な技能とが関連し合うことにより、相互の資質や能力が一層高まるためである。

時には指導の効果を高めるために、「A表現」(1)及び(2)の発想や構想に関する指導内容や、(3)の創造的な技能に関する指導内容のみを短時間で単独に扱った題材の設定も考えられる。

その際は、他の題材との関連や配当時間などを十分検討し、指導計画を作成することが重要である。

● 描く活動とつくる活動のいずれも経験させる

ここでいう「描く活動」とは、スケッチや絵及びグラフィックなデザインなど平面上に描くことを主とするが、立体の表面に描くことも含まれる。また、「つくる活動」とは主として彫刻や工芸、立体的デザインなどの立体的な表現のことである。

描く活動とつくる活動の両方を取り入れた表現も可能である。今回の改訂では、生徒の個性豊かな表現の能力を伸ばすため、発想や構想と、それを実現させる創造的な技能をそれぞれ独立させた。その趣旨を踏まえて、表現方法を広くとらえることが大切である。

各内容の指導においては、描く活動とつくる活動のいずれも経験させるようにし、描く活動とつくる活動の学習に著しい偏りが生じないように配慮するとともに、様々な美術表現に親しめるように全体として調和のとれた指導計画を作成することが大切である。

● 第1学年の指導計画について

第1学年の表現においては、美術の表現の能力が幅広く身に付くようにするため、特定の表現分野の活動のみに偏ることなく、「A表現」(1)及び(2)それぞれにおいて(3)と関連付けて、描く活動とつくる活動をいずれも扱うようにする。

年間45単位時間という時数の中ですべてを扱うことになるため、一般的に一題材に充てる時間数は少なくなるものと考えられる。

指導に当たっては、ねらいとする資質や能力を育成するために必要となる画面の大きさや時間数などを十分に考えて題材を検討する必要がある。そして、学年の目標が達成されるように、比較的短時間ででき、効果的に表現の能力が身に付くような題材を適宜取り入れ、指導計画を作成する必要がある。

● 第2学年及び第3学年の指導計画について

第2学年及び第3学年では、より質の高い学習を目指すため、一題材に時間をかけて指導する必要がある。そのため、各学年において内容を選択して行うことが可能であり、2学年間ですべての事項を指導することとしている。

指導計画作成に当たっては、学習の内容が偏らないように、第2学年及び第3学年の各学年においては、「A表現」の(1)及び(2)の双方を扱うようにするとともに、「A表現」全体を通して描く活動とつくる活動が一度は行われるようにする。そして、2学年間で「A表現」(1)及び(2)それぞれにおいて(3)と関連付けて、描く活動とつくる活動をいずれも扱うようにし、調和のとれた指導計画を作成することが大切である。

第2学年で(1)において描く活動を計画した場合には、(2)ではつくる活動を計画し、第3学年では、(1)でつくる活動、(2)で描く活動を計画することになる。このように、第2学年及び第3学年のどの学年においても、(1)及び(2)の両方と、描く活動とつくる活動の双方の学習を経験し、それぞれの能力が高められるようにするということである。それを図に表すと次の「A表現」の指導計画の作成例1・2となる。

「A表現」の指導計画の作成例1

A表現	(1)と(3)		(2)と(3)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
学年	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第1学年	○	○	○	○
第2学年	○			○
第3学年		○	○	

「A表現」の指導計画の作成例2

第2学年		○	○	
第3学年	○			○

(4) 第2の内容の「B鑑賞」の指導については、各学年とも適切かつ十分な授業時数を確保すること。

● 「B鑑賞」の授業時数の確保

「B鑑賞」に充てる授業時数については、今回の改訂では、「適切かつ十分な授業時数を確保すること」としている。これは、鑑賞の学習を年間指導計画の中に位置付け、鑑賞の目標を実現するために必要な授業時数を定め、確実に実施しなければならないことを意味している。

そのためには、鑑賞と表現との関連を考えて鑑賞の指導を位置付けたり、ねらいに応じて独立した鑑賞を適切に設けたりするなど指導計画を工夫する必要がある。

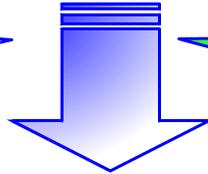
鑑賞に充てる時数は示していないが、学習指導要領に示された内容を生徒に身に付けることができるかどうかを考え、各学校が適切かつ十分な時数を確保しなければならない。その際、生徒や各学校の実態、地域性などを生かした効果的な指導方法を工夫することが求められる。

- (5) 第1章総則の第1の2及び第3章道徳の第1に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、美術科の特質に応じて適切な指導をすること。

● 道徳の時間などとの関連

学習指導要領の第1章総則の第1の2においては、「学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない」と規定されている。

美術科の指導においては、その特質に応じて、道徳について適切に指導する必要がある。



学習活動や学習態度への配慮、教師の態度や行動による感化とともに、以下に示すような美術科の目標と道徳教育との関連を明確に意識しながら、適切な指導を行う。

美術科の目標にある創造する喜びを味わうようにすることは、美しいものや崇高なものを尊重する心につながるものである。また、美術の創造による豊かな情操は、道徳性の基盤を養うものである。

道徳教育の要としての道徳の時間の指導との関連

- ・ 美術科で扱った内容や教材の中で適切なものを、道徳の時間に活用することが効果的な場合もある。
- ・ 道徳の時間で取り上げたことに関係のある内容や教材を美術科で扱う場合には、道徳の時間における指導の成果を生かすように工夫することも考えられる。

美術科の年間指導計画を作成する際には、道徳教育の全体計画との関連、指導の内容及び時期等に配慮し、両者が相互に効果を高め合うようにする。